

郷土の歴史文化を後世に引き継ぐとともに、地域への理解と関心を深める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 本県の歴史文化を後世に伝えるうえで必要な資料を収集する
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

高知県の特色あるテーマである長宗我部氏や四国遍路関係の資料を収集するとともに、戊辰戦争従軍兵、さらには堺事件や戦時資料等を収集した。

<寄贈資料>

- ・村上家資料 明治元年(1868)に戊辰戦争で北越戦線に出兵した村上権七に関する資料群
- ・杉本家資料 明治元年(1868)に大阪府・堺で土佐藩兵とフランス兵とが衝突した堺事件の当事者である、切腹した杉本廣五郎に関わる資料
- ・海軍特別攻撃隊関係資料
太平洋戦争中、須崎市に配属された呉鎮守府第8特攻戦隊第23嵐隊の関係史料。いわゆる人間魚雷である回天の部品や搭乗員にまつわる資料がある。
他に百足図鑑、弾よけ祈願のチョッキ、寺村家資料、加藤家資料、満州移民・引き揚げ者資料等

<寄託資料>

高知県出身で赤十字社の医師として活躍した岡本慶之助にまつわる資料等、他に 2 件

<保存処理修復>

- ・長宗我部元親・信親連署状等、掛軸軸心取替や紐の修理
- ・伝仁井田五人衆の兜について錆止め等の保存処理
- ・西畑人形 40 頭のうち、2頭の保存処理
- ・刀剣は学芸員 1 名が継続的に手入れを実施
- ・登録文化財味元家住宅主屋 1 棟は囲炉裏に 6 回火を入れ、台風時はワイヤーで固定
- ・民俗写真資料の白黒フィルムのカビ取り等の保存作業等を90本行った。

<複製品の製作>

- ・「長宗我部元親書状 根来寺大伝法院宛」の複製を製作

<展示保存環境>

- ・展示室のケース照明は LED 及び無紫外線蛍光灯を使用、ノンエアタイトケースとエアタイトケースを使用している。夏期 24.5度湿度55%、冬期は 24 度湿度55%の保存環境に努めた。エアタイトケースは、主に指定物件などの重要資料の展示に使用、個々の資料に適切な温湿度に設定し展示。
- ・収蔵庫資料(作品)は、資料に適した温湿度で管理(温度は22度、湿度 57%、24 時間空調)
- ・新資料搬入収蔵時は、他の資料に虫害やカビが発生しないように、文化財用の燻蒸ガスを用い、環境に配慮し燻蒸を実施している。

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集については、維新时期や戦時資料等、後世に引継ぐべき文化財を保護・保存するなど、意欲的な取り組みが認められる。 ・展示・収蔵環境については、公開承認施設として適正な管理を行っており、収蔵資料の修復や複製品の作成等を計画的に行い、資料の維持管理に努めたと認められる。 |

要求水準一調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 様々な歴史分野の中から題材を絞り、テーマ性を持った調査研究を進める
- (2) 長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する

状況説明

(1) テーマ性を持った調査研究

<考古>

- ・企画展とコーナー展開催のための準備と調査を実施。企画展に関しては、土佐と阿波の地震・津波碑の編年を行い、その成果を公開。また、土佐国分寺跡の発掘調査の指導や、高知県東部にある四国八十八ヶ所霊場の調査等を実施。高知市市史考古編の執筆に伴い、再調査を行った。

<歴史>

- ・寄贈・寄託、一時預かり資料の基本台帳整備、データ入力のための基礎調査を実施。次期5カ年に予定されている企画展・特別展、コーナー展開催に向けた予備調査や戦時資料に関して聞き取り調査なども行った。

<民俗>

- ・平成27年度より全力を注いでいた収蔵資料の調査が一段落し、平成30年度と令和元年度は民俗に関わる企画展が2本ずつ続き、例年の企画コーナーも含めた展示の準備のための調査を実施。

<美術工芸>

- ・企画展に関連した調査を実施。特に、絵金派の白描群について、テーマや絵師別にグループ分けを行い、今後比較検討を行うための基礎データを整理。また、一部の作品についてはマット装を施し、保管状況を整えた。四万十市の寺院の仏像調査を高知大学や他県の研究者と共に行った。

(2) 長宗我部関係の資料研究・展示

<考古>

- ・岡豊城跡の近・現代の活用について調査を行い、その成果の一部を『岡豊風日』第104号に掲載。また、「志国高知 幕末維新博」に併せて平成31年2月末まで岡豊城跡の詰に設置していた櫓内に岡豊山古墳等について紹介したパネルを初めて展示し、館内だけでなく岡豊城跡を訪れた来場者にも紹介。また、岡豊城跡から出土した瓦の展示紹介も行った。

<歴史>

- ・社会科研究授業のための長宗我部氏掟書等の副教材制作に協力。県内の子どもたちに向けてわかりやすく長宗我部氏について伝えることができた。
- ・長宗我部元親の正室・石谷氏の発祥地と、斎藤利三、明智光秀の関連史跡を調査するため、複数回岐阜・滋賀方面の踏査をした。
- ・令和元年度に実施するコーナー展「香宗我部氏の遺品」のため、元親の実弟・香宗我部親泰の次男が仕官した佐倉堀田家関連の調査をスタートさせ、平成30年度は佐倉宗円寺の墓所を調査した。

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・企画展に関する調査研究を積極的に実施し、成果を発表していることが評価できる。 ・国史跡 岡豊城跡詰への櫓設置や遺稿に関連するパネル展示の実施など、長宗我部や岡豊城への関心を高めたことが認められる。 |

要求水準－展示・公開

これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、県民の郷土への誇りと愛着を育む

評価項目

- (1) 公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行い、5年間で 15 万人以上の観覧者を目指す
- (2) 来館者一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

<企画展>

- ・企画展 4 回を行い、関連した講演会・講座・公演・ミュージアムトークなどを実施。
入館者は 23,784 人となった。前年度は特別展により例年を超える入館者があったため、前年比では入館者が減少しているが、前々年度 23,725 人と比べれば若干増加。
- ・5年間の総入館者数(別会場の特別展含む)は 148,369 人であり、目標の 15 万人には及ばなかったが、民俗資料を保管している旧大柝高校で毎年実施している一般公開事業等、当館以外で開催した収蔵資料や研究成果を発表する機会を観覧した方々も多く、一定の成果はあった。
- ・「安政地震、幕末を揺るがす―土佐・阿波の地震・津波碑が語るもの―」4/28～7/1 65 日間 4,815 人
- ・「絵金を継ぐものたち―当館所蔵初公開作品を中心に―」7/14～9/17 65 日間 4,737 人
- ・「維新が変えた庶民のくらし―絵馬や民具から読み解く高知の近代―」10/6～12/9 65 日間 4,209 人
- ・「郷土玩具にみる明治のおもかげ」1/2～3/24 82 日間 4,995 人

<通常展>入館者数 79 日間 5,028 人

- ・レファレンスサービスでは、簡単な質問については参考資料をもとに解説員等が回答し、専門的な質問については学芸員が対応。より詳しく知りたい方には体験学習室や資料室の図書類等により対応。
- ・30 年度はのべ 105 件 78 時間 40 分。(28 年度 67 時間 30 分、29 年度 64 時間 5 分)
- ・研究者や学生に対する資料調査対応は 23 件、113 時間 20 分。

<ミュージアムトーク>

| | | | |
|------------------|--------|-----|-------------|
| 「安政地震、幕末を揺るがす」 | 3回 | 47人 | |
| 「絵金を継ぐものたち」 | 3回 | 27人 | |
| 「維新が変えた庶民のくらし」 | 4回 | 43人 | |
| 「郷土玩具にみる明治のおもかげ」 | 3回 | 52人 | |
| コーナー展「火縄銃の世界」 | 2回 | 45人 | |
| 夜間開館 | 2日のべ4回 | 53人 | 合計 19回 267人 |

- ・団体などの予約による展示解説については、要望に応じて解説員、学芸員が対応。(昨年は 49 件)

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・5年間の目標人数には達しなかったものの、館外で開催した一般公開事業等を観覧した方々も多くおり、一定の成果は認められる。また、「志国高知幕末維新博」に関連した企画展を開催するなど、企画展開催への努力が認められる。 ・県立の歴史系総合博物館として、様々なレファレンスや調査要請に対し丁寧に対応しており、また、企画展ごとにミュージアムトークを開催しており、観覧者の理解を深める取組を充実させている。 |

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業や校外学習などに計画的に取り組み、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる
- (2) 県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講座などを開催する

状 況 説 明

<教育プログラム(ワクワクワーク)の実績 合計287人>

| | | |
|---------------------|-----|------|
| 「起震車体験」 | 参加者 | 223人 |
| 「歌舞伎メイク体験」 | 参加者 | 15人 |
| 「近現代の史料にふれてみよう」 | 参加者 | 2人 |
| 「土佐和紙漆喰張り子いのししの絵付け」 | 参加者 | 33人 |
| 「消しゴムはんこで郷土玩具」 | 参加者 | 14人 |

<学校教育関係の取組>

- ・体験学習：火おこし、勾玉作り、甲冑体験(13校 576人)
- ・学校授業と連携したポイント解説(17校)、常設展示・企画展自由見学(19校)ビデオ学習(15校)、岡豊城跡見学(16校)
(来館学校実数計 35校 2,040人)
- ・出張授業：8件 550人 (大学の授業を含む)
- ・職場体験学習：6校 17人
- ・バス送迎事業：1件(佐川町立斗賀野小学校 26人 ※教員3名)
- ・大学との連携：博物館実習1校(1人)を7日間受入
- ・国立大学で日本文化史・博物館学芸員資格に関する授業を非常勤講師として講義した。

<講演会、公演、講座>

・講演会

企画展「安政地震、幕末を揺るがすー土佐・阿波の地震・津波碑が語るものー」

日本石仏協会理事・土佐史談会理事 岡村庄造氏 「幕末の土佐・阿波の地震碑」 30人

企画展「維新が変えた庶民のくらしー絵馬や民具から読み解く高知の近代ー」

元神奈川大学教授 香月洋一郎氏 「土佐の民具に見る時代と社会ー農具と山林用具を中心にー」 81人

企画展「郷土玩具にみる明治のおもかげ」

日本郷土玩具の会会長 中村浩訳氏

「郷土玩具と呼ばれるようになるまで～郷土玩具は明治時代に発見された！～」 50人

・公演

企画展「維新が変えた庶民のくらしー絵馬や民具から読み解く高知の近代ー」

西畑人形芝居保存会 西畑人形芝居「岩見重太郎大蛇退治」(前・後編) 108人

・講座

企画展「安政地震、幕末を揺るがすー土佐・阿波の地震・津波碑が語るものー」

日本石仏協会理事・土佐史談会理事 岡村庄造氏 「歴史を写しとるー拓本のとり方ー」 19人

高知コア研究所主任研究員 谷川亘氏 「地震・津波碑を残すー3D化プロジェクトー」 29人

企画展「絵金を継ぐものたちー当館所蔵初公開作品を中心にー」

当館学芸員 那須望 「絵金とその弟子」 36人

企画展「維新が変えた庶民のくらしー絵馬や民具から読み解く高知の近代ー」

当館学芸員 石畑匡基 「福岡大演習絵馬を読み解く」 14人

当館学芸チーフ(学芸担当) 梅野光興 「絵馬に見る明治維新後の庶民文化」 19人

<職員のパ遣>

| |
|--|
| <p>いの町春の生涯学習講座、野市史談会などへの講師派遣</p> <p><子どもたち等に来館してもらう取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクワクワーク(子ども歴史教室)の開催 起震車体験、歌舞伎メイク、土佐和紙漆喰張り子いのしし絵付けなど 開催 287人 ・季節のイベント開催 れきみんの日(クイズの陣、坂本龍馬湿板写真実物資料の公開など) 593人 れきみん! サマーミュージアム(ワークショップ、東工業ものづくり教室など) 4日間 1,768人 れきみんのお正月(ワークショップ、ミュージアムトーク、新春運だめしおみくじなど)2日間 546人 |
|--|

| 評価 | 理由 |
|----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・企画展関連の教育プログラムの実施や、体験学習、出張授業等を毎年継続して開催することにより、子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させていることが認められる。 ・季節のイベントや、楽しみながら歴史を学べる様々なワークショップを開催しており、館の創意工夫が評価できる。 |

評価項目

土佐の歴史に関する積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

(1) 紙媒体・マスコミ・ネットを通じた広報

- ・企画展のポスター・ちらしを県内の学校・コンビニや県内外の博物館に送付し、幅広く広報している。
- ・館のリーフレットや『年間カレンダー』を観光案内所、旅館、ホテルなどへ配布し、観光客の目にも触れるようにしている。
- ・新聞やテレビだけではなく、HP などネットを活用した広報も実施。(館 HP アクセス数 35,020 件)
- ・『ほっとこうち』、『るるぶ』などの雑誌にも掲載し、広報に努めている。
- ・企画展開催前に報道機関に情報提供し、企画展の取材につなげている。
- ・企画展観覧やイベント参加を対象に「れきみんスタンプラリー」を実施し、年間通してのPRを実施。

(2) イベント等における広報活動

- ・大分県の大野川合戦まつり・ご当地キャラまつり in 須崎(高知県)、ものべかわフェスタなどに出店し、グッズ販売や当館のPRを行った。
- ・カレンダー作成などの新たな企画を盛りこんだ岡豊山フォトコンテストを実施し、岡豊山への来場を促すとともに応募作品は広報素材として活用した。

(3) 広報プロジェクトチームによる広報内容の検討と実施

- ・SNS 館内マニュアルを作成し、情報発信を本格的に開始。
- ・企画展等のポスター掲示へ協力いただく「ポスター貼ります隊」制度を創設し、募集の準備を行った。
- ・他にも、企画展やイベント時のチラシ作成や配布を強化した。

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・新聞特集記事や広告の掲載を実施し、積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広めっていると評価できる。 ・年間を通じて、地域のコンビニの協力を得て、チラシ等を常時配置している。 ・広報プロジェクトチームの設置や「ポスター貼ります隊」の創設など、新たな取り組みを行っていることから、観覧者増に向けた今後の取り組みに期待する。 |

評価項目

- (1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る
- (2) 岡豊山周辺を歴史的な好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携した取り組みを通じて地域の活性化に貢献する

状況説明

- (1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の実施
- ・県立高知城歴史博物館や県立坂本龍馬記念館、北川村中岡慎太郎館などに収蔵資料を貸出。
 - ・徳島県教育委員会や国立研究開発法人海洋研究開発機構高知コア研究所の協力により、企画展「安政地震、幕末を揺るがす」を充実させた。
 - ・こうちミュージアムネットワークと協力し愛媛県の寺院の被災資料のレスキューを実施。南海地震に備え、県内の博物館の連携を深める上でも大きな意義があった。
 - ・四国地区博物館協議会に参加し、博物館の地域連携や博物館を取り巻く全国的な状況について講演
 - ・物部地域や、徳島県の地域おこし協力隊と連携し、第7回旧大柝高校民俗資料一般公開を実施。
- (2) 岡豊山周辺の取組
- ・長宗我部氏・国史跡・岡豊城跡の文化資源の活用
 長宗我部展示室では、適切な展示公開期間を考慮して、複製品の製作や保存処理を施して展示替えを行うことにより、資料の保存と公開の両立を図っている。また、テーマ展示を行うことで、新鮮味を出し、県内外の歴史ファンにも親しめる展示を行っている。
 国史跡・岡豊城跡は檜の来場者が30年度11ヶ月で15,099人、通算41,698人で期間の目標4万人を達成。
 - ・国史跡・岡豊城跡を活かした地域住民との連携
 岡豊山、岡豊城跡を会場にする「岡豊山さくらまつり(土佐の食1グランプリ)」、「長宗我部フェス」、「長宗我部元親 RALLY」等のイベントを土佐のまほろば地区振興協議会、地域ボランティア、岡豊地区各自治会、地域女性グループ、カルチャーサポーターの協力も得て実施。
 - ・長宗我部ゆかりの地との連携
 「長宗我部フェス」では大分県から豊後大友宗麟鉄砲隊を招待。また、11月に大分県で開催される「大野川合戦まつり」に出展し高知県及び当館の広報を行い、誘客につなげるよう努めた。
 「長宗我部フェス」に徳島県から三好長慶武者行列まつり実行委員会が初参加。「長宗我部まつり」とともに「土佐長宗我部の陣」として共通のポスター、チラシを作成するなど効果的にPRをおこなった。
 れきみんツアーでは徳島県藍住町を訪れ、藍住町教育委員会の担当者に岡豊城跡と関連・共通項の多い勝瑞館跡の案内をしてもらい、情報交換も行った。

| 評価 | 理由 |
|----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・県内の博物館等の資料調査、展示、保存等への協力・連携に努めたことが認められるとともに、こうちミュージアムネットワークと協力し愛媛県の寺院の被災資料のレスキューを実施したことも評価できる。 ・土佐のまほろば地区振興協議会等とともに、地域に根付いた活動を実施することを通して、長宗我部氏を含めた岡豊山全体の魅力を発信したことが評価できる。 |

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

| 評価項目 | | |
|---------------|----------|---|
| (1)適切な管理運営の確保 | 社会的責任 | ・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況 |
| | 建物や設備の管理 | ・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況 |
| | 危機管理 | ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修 |

状 況 説 明

<社会的責任>

- ・始業、終業時刻の遵守、時間外勤務事前命令の徹底等について、職員に周知し、適正な労働時間管理に努めたほか、通勤などで使用する自家用車、公用車の運転は法規を遵守することを徹底。
- ・個人情報の管理については、(公財)高知県文化財団の個人情報保護規定により適正に運用。
- ・資料の借用や預かりに際しての相手方との書類のやりとりを適正に行うよう、学芸員を指導している。

<建物や設備の管理>

(点検・修繕)点検作業の結果、洋式トイレ便座取替や雨樋修繕等を実施

(業務委託)

- ・展示室内の空調等の機械設備は業者委託し毎日点検。
- ・館内外の清掃は業者に委託し清掃を実施。
- ・館内外警備は24時間警備を委託し、夜間機械警備も併用。毎朝警備報告を確認、夜間異常がある場合は職員と連絡ができる体制を組んでいる。大雨時や震度3以上の揺れが確認された時は、夜間でも特別巡回を指示している。
- ・エレベーター、自動ドアの点検も実施。

<危機管理>

- ・警備員や空調委託業者と自衛消防団を組織。「風水害等の配備基準及び職員体制」により大雨などに対応。台風前は委託業者や職員による点検を実施。火災・地震に関しては、年1回消防署の立会のもと避難訓練・消防訓練を実施。年2回職員による消防点検も実施。盗難等危機管理対策として、エントランス・展示室内にカメラを設置し、警備室・総務事業課で監視できる体制を取っている。防災関係のマニュアル及び緊急連絡先一覧(業者含)を作成し配置。県内唯一燻蒸庫をもつ博物館であるため燻蒸機器の定期点検を実施。
- ・文化財の防犯については、文化庁が主催する「国宝・重要文化財防災・防犯対策研修会」に毎年職員を派遣し最新の防犯体制の情報を取得している。

| 評価 | 理 由 |
|----|---|
| B | 日頃から危機管理意識を十分に持ち、非常時に速やかな対応がとれる体制を構築している。 |

| 評価項目 | |
|------------------|---|
| (2) 利用者サービスの維持向上 | ・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み |

| 状況説明 | |
|--|--|
| <p>・来館者アンケートを実施し、アンケートの内容は職員間で情報共有し業務改善に活かしている。</p> <p>・アンケートや電話等によりいただいた声には、可能な限り対応するように努めている。</p> <p>利用者の意見の反映例：</p> <p>①入口が分かりづらい → 1階入口手前の地面や建物柱、階段壁面に誘導サイン表示</p> <p>②パネルの難しい用語は解説をつけてほしい → 難しい用語に解説をつけた</p> <p>③企画展の第1会場が3Fの総合展示室の中にあることがわからなかった → 総合展示室入口に表示を設けた</p> <p>④昭和のくらし、生活用品、おもちゃを展示してほしい → 企画展を検討中</p> <p>⑤エレベーターの軋み音がこわい → エレベーターの点検・修理を行った</p> <p>⑥バス停が遠い。館玄関前にバスが来てほしい → 催事の一部に限り、シャトルバスを運行</p> <p>・アンケートでは、館の感想として90%の方が「大変満足」または「良かった」と回答</p> <p>・職員は研修に参加し、専門性の向上に努めるとともに、学芸員は、資料の取扱いについて日々研鑽し、県内外で調査・研究を行い、学会にも参加している。</p> <p>研修の実施状況：</p> <p>①国立歴史民俗博物館主催の専門職員研修</p> <p>②高知県文化財団主催の学芸員保存科学研修、会計研修、救命講習(全職員)</p> <p>③高知県主催の公務員倫理研修・人権問題研修</p> <p>・岡豊山で動けなくなった来場者の救出や急病者への救急車出動要請などを行っている。本年度は負傷者・急病者2名に対応した。</p> <p>・平成31年1月から館内組織横断的なプロジェクトチーム(PT)の1つとして「お客様改善要望対応PT」を発足させ、受付業務等の中で把握した要望事項について、定期的に検討する仕組みを構築した。</p> | |

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| A | <p>・サービス向上に向け、利用者からの要望・意見に迅速に対応していることが評価できる。</p> <p>・「お客様改善要望対応PT」により、来館者の要望に応じる体制を構築することで、サービスの充実を図る取り組みを行っている。</p> |

| 評価項目 | | |
|---------|---------|----------|
| (3)利用実績 | 利用実績の状況 | ・利用状況の分析 |

| 状況説明 | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の観覧者目標3万人に対し、23,784人と約80%の達成率に止まった。 ・岡豊山歴史公園(国史跡・岡豊城跡)への来場者目標は3万人で、実績27,911人(岡豊山さくらまつり5,000人、長宗我部フェス1,100人を含む)となっているが、これはさくらまつりが年度を跨いでの開催であったため、3月31日の4,000人を考慮すれば、目標値を大きく下回ったとはいえない。 ・登録文化財味元家住宅主屋は学校団体や地域のサークル団体のスケッチ会など7件、多目的ホールは講演会などの貸館や民家の甲子園などの共催事業のほか、学校団体、ビデオ視聴で64件の利用があった。前年並みの実績であった。 ・学校単位での来館数は、35校で2,040人、延べ80校で4,362人であり、学校数としては前年より若干多いが、人数は少ない結果となった。 | |

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| B | ・観覧者数については、観覧者目標を下回ったものの、岡豊山歴史公園でのイベント開催等、来場者増に向けての館の意欲が認められる。 |

| |
|--------|
| 【ご意見等】 |
|--------|

| 評価項目 | | |
|----------|------|-----------------------|
| (4)収支の状況 | 経営努力 | ・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み |

| 状況説明 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・観覧料収入は3,831千円で、予算額に対し66%の達成に止まった。入館者数が80%であったことを考えると、有料入館者の比率が低くなった傾向がみられる。図録等の販売収入は556千円で、予定していた図録の刊行ができず予算額を下回った。管理代行料を除く事業収入等(外部からの助成金を含む)では予算対比77%となった。 ・長宗我部氏関連のオリジナルグッズを作成し、広報も兼ねて県内外のイベントにて販売。 ・当館の支出で多額となるのは電気料であるため、引き続き不要部分の消灯などに努めた。 ・消耗品等の発注には、グリーン購入法に配慮しつつ価格を比較検討、また過剰在庫とならないよう留意する取り組みを行った。 | |

| 評価 | 理由 |
|----|-------------------------|
| B | 経費削減やグッズ等の販売への工夫が認められる。 |

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・「志国高知 幕末維新博」に関連した企画展を開催するとともに、岡豊城跡の詰に櫓をあげることで県内外の多く来館者や来場者があり、さらにボランティアによる岡豊城跡案内も好評であったと認められる。 ・企画展等の観覧者数は目標を下回ったものの、岡豊山歴史公園でのイベント開催や、館外での一般公開事業等の実施など、内外に向けて取り組みを行っており、一定の成果は認められる。 ・企画展のうち「維新が変えた庶民のくらしー絵馬や民具から読み解く高知の近代ー」では、維新に関連する絵馬などをパンフレットで紹介することで地域の文化財保護にも貢献することができた。 ・教育普及関係では、ワクワクワークや職場体験などを通して、児童や生徒に歴史の重要性を伝えるとともに継続的な事業展開ができている。 ・地域の関係団体と良好な関係を築き、行事やイベントを開催しており、地域活性化への貢献が認められる。 ・「お客様改善要望対応PT」により、来館者の要望に応じる体制を構築することで、サービスの充実を図る取り組みを行っている。 <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p> |

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。